

いよいよ冬を迎え、すっかり葉を落とした落葉樹を改めて眺めてみると...

きめ細やかで美しい枝ぶりに思わず見入ってしまった、という経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか？

葉を落としている冬季の落葉樹、その種類を判断するときには、樹肌や根元付近の落ち葉を見ることが多いのですが、「冬芽」や「葉痕」も手がかりの一つになります。

「冬芽」とは、春の芽吹きに備えて、枝の先や途中に付いている葉や花の芽のことで、柔らかそうな毛で覆われていたり、芽鱗(がりん)で覆われているものも多く、冬の寒さ対策なのでしょうね。

読み方は「とうが」でも「ふゆめ」でもいいと思います。

「葉痕」(ようこん)の方はあまり聞きなれない言葉ですが、“葉の落ちた痕”のことで、葉柄の先がこの位置に付いていたことになります。

これらの冬芽・葉痕は、木の種類によって一定の特徴がありますので、落葉期における樹種判断の手がかりになるのですが、実はそれだけではないのです！

よく観察してみると、不思議なことに人や動物などの顔が浮かんで見えてくることがあります。

しかも、結構愉快的な“おもしろ顔”が見つかったりして、嬉しくなるのです。

生きものの姿が少なくなったこれからの季節、皆様も“冬芽・葉痕ウォッチング”を散策の楽しみの一つとされてはいかがでしょうか？

(今後も、ユニークな冬芽・葉痕を見つければ、報告したいと思います。)

写真 : 「アカメガシワ」の冬芽、葉痕

写真 : 「アカメガシワ」の冬芽、葉痕

写真 : 「タラノキ」の冬芽、葉痕

写真 : 「キリ」(若木)の冬芽、葉痕











